

# ほつかいどう NIE 通信

Newspaper in Education



発行 北海道NIE推進協議会

〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6 北海道新聞社内 ☎ 011-210-5802 FAX 011-210-5826

2011年の東日本大震災に関わっては、新聞各社から悲しいニュースばかりでなく、心温まるニュースもたくさん発信された。次の記事（一部抜粋）は、群馬県の地方紙・上毛新聞に掲載された「一つだけのケーキ」である。

金石市でケーキ店を営む「亀山さん」の高台にあつた本店は、津波被災を免れた。地震の翌日、おじいさんが店を訪れ「ケーキを作つてほしい」とお願いした。

「昨日の11日は、孫の誕生日で家族みんなでお祝いする予定だった。誕生日のケーキを注文していたのは母親だった。しかし、母親は、夫と共に津波にのまれ

ーード大の苅谷剛彦教授が記念講演「賢い市民」と教育を行った。民主主義を維持するには、国民へ「考えて投票する」教育が欠かせない点を強調。判断を支える情報源として

## 徳島でNIE全国大会

「よき紙民になる」子どもに意欲を持たせるNIE活動」をテーマにした第19回NIE全国大会が7月31日、8月1日の両日、徳島市で開催され、約960人が参加した。小学4年生が新聞記事の見出しをつける公開授業などが行われ、実践で育成した読解力や表現力の成果を披露した。

## 意欲高める授業模索

### 実践で培った成果を披露

「思考を深化させることのできる新聞」の良さを挙げた。

また、シンボジウム「子どもに意欲を持たせるNIEの在り方」には、教師や徳島新聞のNIE担当者ら7人が登壇。小学校でNIE授業を受けたという理化

E授業を受けたという理化学研の田尾賢太郎研究員は「日常に情報比べた方が、書かれた背景を考える力がついたのは新聞を読む習慣のおかげ」と話した。

最終日は、六つの公開授業と五つの実践発表、七つ



の特別分科会が開かれた。吉野川市立知恵島小の公開授業は、4年国語科の「新聞記事にぴったりな見出しをつけよう」。4時間構成の最終時で、児童24人が6班に分かれ、脇本正久と話し合いを進め、記事の「驚異の粘り」「反撃」などを生かしたほか、記事にはない「奇跡」といった言葉を使つた班もあった。

事後研修で脇本教諭は「見出しをつける学習を続ければ、5W1Hを意識しながら、興味を持つて記事を読む態度を養うことができる」と話していた。



### 交流深め「考える」力育む

札幌市立稻穂小校長 上村 尚生

時間で取り上げた。この授業を通して、先生・子どもたちと亀山さんとの間に、何度も何度も電話や手紙でのやりとりがあり、交流が深まつていったという。

亀山さんからは、同じア

教諭の選んだ全国高校野球選手権石川県大会決勝で、星陵高が9回裏に大逆転した朝日新聞の記事の主・脇本正久と話合いを進め、記事を見出しを考へた。同校は、毎日の音読活動や辞書をこまめに引いて語彙（ごい）を増やす学習に力を入れる。児童は分からぬ言葉の意味を辞書で調べてキーワードを整理した後、班ごとに話し合いを進め、記事の「驚異の粘り」「反撃」などを生かしたほか、記事にはない「奇跡」といった言葉を使つた班もあった。

北海道新聞ホームページ「NIE」([www.doshin-nie.com/](http://www.doshin-nie.com/))でバックナンバーから閲覧できます

## 全国大会を振り返って



教育現場での新聞活用を目指す北海道NIE推進協議会(高辻清敏会長)主催の本年度のNIEセミナーが6月26日、鉄路地区からスタートした。

札幌市立三角山小教諭

檜 克博

大会スローガン(よき紙民になる)子どもに意欲を持たせるNIE活動の「紙民」は、市民との掛け言葉。全国から集つた千人近い関係者の期待感もあり、梅雨明けの

本敗退」「夢の続き4年後に日本敗退」などの見出しが、最終的に新聞を完成させた内容だ。

この日は指導案の3時間目に当たる「新聞の見出しをしらべよう(見出しの力)」がテーマで、授業前半で題材にしたのは、前半はサッカーのワールドカップ(W杯)1次リーグ・C組最終戦(対コロンビア)で、日本代表が敗れた際の

(合田晃子校長)で開かれ、鉄路、根室両管内の教員ら約50人が参加した。

冒頭の公開授業は、5年生32人を担任する同校の蓮井理砂教諭が国語科単元「新聞を作ろう」(教育出版版)に沿つて練り上げた学習指導案がベース。編集会議や取材、記事書き、割り

13回目を迎えた鉄路地区セミナーは鉄路市立中央小(合田晃子校長)で開かれ、鉄路、根室両管内の教員ら約50人が参加した。

冒頭の公開授業は、5年生32人を担任する同校の蓮井理砂教諭が国語科単元「新聞を作ろう」(教育出版版)に沿つて練り上げた学習指導案がベース。編集会議や取材、記事書き、割り

## 児童見出し付けに挑戦

鉄路

付けなどに計10時間を作り、最終的に新聞を完成させた内容だ。

この日は指導案の3時間目に当たる「新聞の見出しをしらべよう(見出しの力)」がテーマで、授業前半で題材にしたのは、前半はサッカーのワールドカップ(W杯)1次リーグ・C組最終戦(対コロンビア)で、日本代表が敗れた際の

後半は実際に紙面化された新聞記事を読んだ。

この日は鉄路市内の浅田貴由教諭(新陽小)、中村繁人教諭(景雲中)、四鈴みゆき教諭(鉄路東高)の3人による実践報告も行われた。

セミナーは、前年度に比べ4カ所多い13地区で開かれ、開催地は鉄路市に続き北広島市、稚内市、網走市、函

本年度のNIEセミナーは、前年度に比べ4カ所多い13地区で開かれ、開催地は鉄路市に続き北広島市、稚内市、網走市、函

稚内市、網走市、函

稚内市、網走市、函

稚内市、網走市、函

稚内市、網走市、函

PTA広報紙のレベルアップを目指す石狩管内広報

PTA広報紙のレベルアップを目指す石狩管内広報

## 広報活動研修会 北広島市で開催

タードで開かれた「写真Ⅱ」。管内の7市町村の小・中学校で、広報紙の編集発行を担当する80人余りが参加。はじめに北海道新聞NIE推進センターの葛西信雄委員が「コミュニケーションを育む広報紙のあり方」をテーマに企画会議や取材の仕方、児童生徒の生き生きとした表情をとらえる写真撮影の重要性などをについて話した。



本年度のNIEセミナーは、前年度に比べ4カ所多い13地区で開かれ、開催地は鉄路市に続き北広島市、稚内市、網走市、函



稚内市、網走市、函

稚内市、網走市、函

## 「よき紙民」が「よき市民」に

た。立ち止まって読む、読み返す、読み比べるなど、新聞は「思考を相対化する上で役立つものである」とした上で、「教育者にとって批判的能力の育成にもなる」と話した。新聞は生涯を通じて学ぶべきよき教材であり、知的レベルを向上させるツールにもなっていると強く感じた。

徳島はうだるような「熱さ」だつた。初日(7月31日)の苅谷剛彦・オックスフォード大学教授による講演は、新聞の社会的役割を指摘した内容だ

た。この実践を重ねていくことで読む力がしっかりと身に付くと感じた。

大会では、よき「紙民」を

で、見出しを付ける体験が行われた。鉄路市内で8日ぶりにまとまつた日照時間では、「晴天笑顔咲く」などとひどい負け方だと感じた。けれど、「敗退」なら単純な負けだと思うけど、「完敗」だけだと思いついた。

この日は鉄路市内の浅田貴由教諭(新陽小)、中村繁人教諭(景雲中)、四鈴みゆき教諭(鉄路東高)の3人による実践報告も行われた。

セミナーは、前年度に比べ4カ所多い13地区で開かれ、開催地は鉄路市に続き北広島市、稚内市、網走市、函

稚内市、網走市、函

稚内市、網走市、函

稚内市、網走市、函

のところから新聞に親しむということが大切だと言うことであり、よき「紙民」を増やしていくためには、NIEのすそを広げていくことが重要であることを再確認させられた。

「最後に徳島観光パンフレットを作る」という目的があるので、何のために新聞を活用するのかを子どもたちはよく理解していた。

もう1校の授業は、「新聞記事にぴったりな見出しをつけよう」という国語の実践であった。しつかり新聞記事手書き手が読み手に読み取り、書き手が読み手に何を伝えたいのかを考えた。見出しの授業であつた。見出しのヒントとして子どもたちはW1Hを抜き出し、表現を

工夫して見出しを作つていった。この実践を重ねていくことで読む力がしっかりと身に付くと感じた。

大会では、よき「紙民」を育てる実践活動が紹介され、さらに、よき「市民」の姿が語られたことで、新聞の果たす社会的な役割の一部分をしつかりと見ることができた。それは大会の理論と実践がうまくかみ合つていたからだと思う。

教師である自分自身が、思考する習慣を重ねながらNIE実践を楽しむことによって、よき「紙民」になり、子どもたちを将来、よき「市民」に導いていきたいと切に思つた。

# 憲法と地方自治学ぶ

江別・北翔短大



待機児童問題を取り上げた新聞記事を熟読する北翔  
短大二年生の学生たち

待機児童問題を取り上げた新聞記事を通して、地方自治を保障する日本国憲法と、実際の行政執行を担う地方公共団体の関係を読み解く授業が6月30日、卒業生の8割が保育士や幼稚園・小学校教諭として東立つ北翔短大二年生も学科（江別市文京台）で行われた。実践代表者の菊地達夫教授（45）は「社会へ『目』を向けさせる教材として新聞の効果は大きい」と、NIE活動を評価する。（葛西信雄・北海道新聞NIE推進センター委員）

## 実践校 リポート

1年生約130人が履修する授業。憲法に関しては集団的自衛権に関する記事などをもとに5月までに計2回にわたって開き、基本的な理解を深め

## 子育て問題解決策を考察

この日の授業で菊地教授は、地方公共団体は憲法の範囲内でさまざまな行政サービスを提供する条例制定が許されるとした上で、東京都の場合、認可保育所と認可外保育所の中間機能を持つ「認証保育所」設置をさせた。

記事は、全国20政令指定都市の潜在的待機児童が各市の数字を大きく上回つた「待機児童数」実態は6・8倍（北海道新聞6月23日付）と、倒産を懸念した自治体から、保育所の認可を拒否された企業が4割以上という公正取引委員会

の条例があることを紹介し（公取委）の調査結果をまとめた「保育所参入自治体の壁」（同6月26日付）の児童数の推移、約30年後の年少人口（0～14歳）の減少を予測した札幌市のデータを配布。保育所数が伸びているのにもかかわらず、待機児童数が増えている実態を確認させた。

授業後半で活用した新聞記事は、全国20政令指定都市の潜在的待機児童が各市の数字を大きく上回つた「待機児童数」実態は6・8倍（北海道新聞6月23日付）と、倒産を懸念した自治体から、保育所の認可を拒否された企業が4割以上という公正取引委員会

い」などと回答した。さらに課題解決の手段も考察させた。「親の仕事や生活に直結する一刻を争う問題。積極的に企業参入の後押しを」のほか、保育士不足については「子育てのために退職した有資格者の再任用を導入すべきだ」との意見もあった。

幼稚園教諭を目指している。2年目には「保育者・教員養成課程における社会的認識を深める実践」をテーマにNIE活動を展開しておる今年9月に開かれる保育士養成協議会研究大会（福岡市）で、こうした成果を発表することになつて

## 函館水産高新聞部

青函連絡船洞爺丸など5隻が転覆した1954年9月26日の洞爺丸台風から、今年で60年の節目を迎える。乗員乗客1430人が犠牲となつた未曾有の海難事故を風化させまいと、函館水産高新聞部は特集号「台風との戦いから学ぶ『船の安全』」を発行した（写真）。

函館湾にいた洞爺丸と、貨物船の十勝丸など4隻が転覆。七重浜沖で横転沈没した洞爺丸の乗客乗員1155人が亡くなり、他の4隻も乗員275人が犠牲になつた。台風では、十勝丸の機関長ら同校のOBも犠牲になつている。新聞部発行の「蒼海時報」の復刊200号に合わせて5月から特集号の準



## 洞爺丸台風特集号を発刊

備に入ったという。部員3人が真っ先に取材したのはOBでもある青函連絡船記念館「摩周丸」の佐藤幸雄副館長だ。基本的なデータを収集した後、紹介された関係資料や書籍なども分担して熟読し、約1ヶ月間かけて発行にこぎ着けた。

本記では、洞爺丸が風速57m/hの暴風雨によつて排水作業が困難となり、七重浜沖で横転沈没した様子や、近藤平市船長が最後まで救命胴衣の装着をこばんで指揮を執ったエピソードなどを記述。当日の5隻の様子を時系列でまとめた表「青函連絡船の記録」を掲載したほか、事故をきつかけに新造船には船尾扉が設けられるなどの安全部門（B4判2面）を印刷。

顧問の山本かおり教諭は、「うちの学校の目の前で起きた惨劇。部員のがんばりで活字として残り、後輩たちにも語り継ぐことができる」と話していた。

「新聞記者は確度の高い情報を取るのが使命」と話す飯山さん



【略歴】いいやま・まさし 1957年6月、東京都生まれ。読売新聞在職中に政策研究大学院大学で博士号を取得し、東京本社調査研究本部・主任研究員をへて今年4月から函教大国際地域学科教授に。「アメリカの宗教右派」など著書多数。テレビ番組「ミヤネ屋」のレギュラー・コメントーターとしても活躍した。

# 編集後記

○…認知症の実母が7月初旬、グループホームに入居した。相前後にして北海道新聞の投稿欄「みらい君の広場」の担当になった。作品を送ってくれるのは小学高学年から高校生。ちょうど思春期であり、反抗期でもある。両親に寄せた作品も少なからずあり、同じ年回りだったころの苦い思い出を回想しながら、作品を読むことがある。

○…浜育ちの実母は「おらだきや、あだま悪いんではあ(私は本当に頭が悪いから)」が口癖だった。その分、よく働いた人でもあった。中学2年の時は、家にごく近い道路工事の作業員だった。大きな真っ赤な旗を持って車の誘導を担当していたのだが、その仕事とその姿を恥じ、級友から冷やかされるのも恐れ、遠回りして登校した。

○…職業に貴賤はない。むしろ額に汗して愚直に働いている人こそ尊いと、今は思うようになった。実母は子ども3人を、まずは世間並みに育て上げたのだが、認知のひどくなる前、こんなことを言うようになった。「おめだらばかせる（食べさせる）のに、ていっぺ稼いでいたどぎが、おらの一番えがつだどぎだなあや」。実母にとっての華の時は、懸命に働いていた子育て真っ最中のころだったのだろう。情けないおじさんから、みらい君たちにひと言。親ってすごいぞ！

研究者、教育者になりまして、それで読売新聞に30年以上在職しました。長く続いている新聞社つて、それぞれその看板、ブランドを背負つていて「ここに書いてあることは信じてください」と言えるんで

すね。金をかけてたくさん  
の記者を雇い、その記者に  
ちゃんと教育訓練し、ジャ  
ーナリストとして育ててい  
るからです。新聞記者の仕  
事は、より質の高い情報を  
出され、強い衝撃を受けま  
中学生の時、ベトナム戦  
争がありました。テレビに  
戦場の悲惨な生の姿が映し  
出され、強い衝撃を受けま

元說壳新聞記者

日本で最初の日刊紙「横濱毎日新聞」が誕生して40年余り。ほのかなインクの香りとともに近現代史と寄り添うようにして、地域の、国内の、そして世界のあらゆる分野の事象をきめ細かく伝え、在るべき姿も提言し続けてきたのが新聞だ。この中の最前線で、あるいはごく近い立場から新聞と向き合ってきた人たちにインタビュー。記者たちが果たしている役割を紹介しながら、改めて新聞というメディアの持つ魅力を問い合わせてみた。

**飯山 雅史さん**  
(道教育大函館校教授)

取ることですが、質の高い情報を得るために記者が不斷の努力をしているのです。  
きちんととした取材体制を構え、しかもチェックする体制もあり、自分たちで品質保証をしています。そこが裏も取らない、確認もない情報を垂れ流しているインターネットとの大きな違いです。ネット情報は玉石混交で非常に気をつけなければいけません。

した。「戦場をリポートする仕事」。それが海外報道記者を志すきっかけだと想います。

就職試験では、資本の論理の中で戦争賛美に走つた商業新聞には興味がなく、本命はNHKなどテレビだったのですが見事に蹴られ、そこを救ってくれたのが読売新聞でした。1980年に入社し新潟支局が振り出し。その後、

書かないといけない。該当する本は図書館にしかないから、オープンする朝の8時前にはずらつと列ができる。夜になると席がなくなつちやうので床にあぐらかいて本を読む。で、図書館に行かなければきや商売にならないから、毎日午前4時まで開いているんです。

ちょうど旧ソ連のアフガニスタン侵攻を受け、第

帰国して東京政治部に異動し、当時の中曾根康弘首相を取材する総理番になります。念願の国際部へ転じたのは3年後です。リオデジャネイロ支局を経て95年10月からワシントン支局に勤務。ビル・クリントンが当選した96年の大統領選を経験します。予備選から始まつてほ

日本で最初の日刊紙「横濱毎日新聞」が誕生して40年余り。ほのかなインクの香りとともに近現代史と寄り添うようにして、地域の、国内の、そして世界のあらゆる分野の事象をきめ細かく伝え、在るべき姿も提言し続けてきたのが新聞だ。この中の最前線で、あるいはごく近い立場から新聞と向き合ってきた人たちにインタビュー。記者たちが果たしている役割を紹介しながら、改めて新聞というメディアの持つ魅力を問い合わせてみた。

新聞って  
ステキ!

質高い情報取得が使命

**飯山 雅史さん**  
(道教育大函館校教授)

取ることですが、質の高い情報を得るために記者が不斷の努力をしているのです。  
きちんととした取材体制を構え、しかもチェックする体制もあり、自分たちで品質保証をしています。そこが裏も取らない、確認もない情報を垂れ流しているインターネットとの大きな違いです。ネット情報は玉石混交で非常に気をつけなければいけません。

した。「戦場をリポートする仕事」。それが海外報道記者を志すきっかけだと想います。

就職試験では、資本の論理の中で戦争賛美に走つた商業新聞には興味がなく、本命はNHKなどテレビだったのですが見事に蹴られ、そこを救ってくれたのが読売新聞でした。1980年に入社し新潟支局が振り出し。その後、

書かないといけない。該当する本は図書館にしかないから、オープンする朝の8時前にはずらつと列ができる。夜になると席がなくなつちやうので床にあぐらかいて本を読む。で、図書館に行かなければきや商売にならないから、毎日午前4時まで開いているんです。

ちょうど旧ソ連のアフガニスタン侵攻を受け、第

帰国して東京政治部に異動し、当時の中曾根康弘首相を取材する総理番になります。念願の国際部へ転じたのは3年後です。リオデジャネイロ支局を経て95年10月からワシントン支局に勤務。ビル・クリントンが当選した96年の大統領選を経験します。予備選から始まつてほ